

# 保護司会だより 第41号

習志野八千代地区保護司会

広報部

引き続き、皆様のお力添えを



千葉保護観察所長

古山 正成

昨年4月1日付けで福岡保護観察所から異動してまいりました古山（こやま）と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

はじめに、習志野八千代地区の更生保護が、保護司の皆様を始めとする更生保護関係者各位の御尽力と、自治体を始めとする関係機関・団体各位及び経済界を始めとする各界の皆様、そして地域の方からの幅広い御支援と御協力により、充実した制度として営まれていることに対し、心から敬意と感謝の意を表します。

私は千葉県の出身ですが、これまで近畿管内等での勤務が多く、千葉保護観察所での勤務が初めてです。習志野八千代地区の更生保護関係者の皆様に地区内各地の実情等を御教示いただきながら、習志野八千代地区の更生保護の更なる充実と発展のために微力ながら精一杯つとめてまいりたいと思っております。

さて、このたびの新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、皆様方におかれましても、日々の生活や健康面において様々な影響を受けられたのではと案じております。このような事態が完全に戻るまでには、なお一定期間を要し、いわば持久戦の厳しさが見まれます。そして、その後も関係者への影響が尾を引くことも考えられます。このような中であればこそ、更生保護の志を同じくする保護司、更生保護女性会員、BBS会員、更生保護施設、協力雇用主、就労支援事業者機構、更生保護助成協会の皆様の強固な横の連携と、共助の精神がますます大切であり、我々の抛り所となります。

更生保護関係者が一丸となり、力を合わせてこの難局を乗り切っているように、保護観察所としても最大限の努力をしてみたいと考えておりますので、引き続き皆様のお力添えをよろしくお願ひ申し上げます。

## 第71回 社会を明るくする運動



八千代支部主催の講演会后 講師の勝田 聡氏とともに 八千代市市民会館にて

# 第71回「社会を明るくする運動」実施報告

## 作文コンテスト

今回の作文コンテストは、新型コロナウイルス感染症防止対策のもとに、昨年同様、各支部で実施有無が異なっています。習志野支部は例年どおり学校経由で募集し、小学生79・中学生441作品の応募がありました。八千代支部は募集しませんでした。小学校1校、113作品の直接応募がありました。ご本人の了解を得てご紹介します。

### ●千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞）

題名：明るい社会への第一歩  
習志野市立第一中学校 1年 織戸 亮輔

### ●入選

題名：大好きな自転車の犯罪を無くしたい  
習志野市立袖ヶ浦東小学校 5年 庄司 涉

### ●佳作

題名：犯罪・非行がない明るい社会  
八千代市立大和田小学校 6年 江尻 真澄



主唱/法務省  
第71回  
社会を明るくする運動 習志野  
令和3年  
7月7日(水)  
更生保護・人権擁護  
いじめ根絶・非行防止  
幸せの黄色  
に彩る一日  
黄色い何かを身に付ける  
統一行動を市内全域で行い、  
啓発活動を実施します  
習志野市  
習志野市教育委員会



▲習志野支部会員が黄色い物と啓発グッズを持って、まちづくり会議に出席。

▲習志野市役所に横断幕を張りました。

## 講演を聴いて

◆演題：更生を支える実践について

◆講師：札幌保護観察所長 勝田 聡氏

勝田 聡氏

令和3年7月10日、八千代市市民会館で、保護司会・更生保護女性会会員で、講演会が実施されました。「更生を支える実践について」と題された勝田先生のご講演はとてもわかりやすく、楽しいお話でした。冒頭の先生のご紹介が、お話を聴き始めて、その紹介の意味がすぐに理解できる程、先生のお話は、ユーモアに富み、先生の人生観に基づくものであり、とても共感できるものでした。

どんな人でも、この世に産まれ落ちたその瞬間は、「無」であり、「真つ白」です。それが、生きて行く間の様々な要因により、過ちをおかしてしまう人がいる。話を聴いてみれば、やはり成育過程に課題があり、原因と思われることが、そこにはあることが多いと思います。人は一人では生きられない。「居場所」が必要であり、孤独にさせないことは大切な事だと思えます。

先生のお話で印象的だったのは、「日本は赦しの文化」赦されて更生する文化であるとお話と、日本は縦社会であり、過ちをおかした人が戻り易い。海外は横並びの文化で、過ちをおかした人が戻りにくい、とお話でした。日本の良い点を生かして、過ちをおかした人の支えに、少しでもなれますようにと思います。心に残るご講演を、ありがとうございました。



▲札幌保護観察所長 勝田 聡氏

八千代支部 津川 恵美子

第64回  
千葉県更生保護大会

日時 令和3年11月17日（水）  
場所 長生村文化会館

「叙勲」瑞宝双光章

高橋 君枝

法務大臣表彰

船越 博文 鈴木 勉

関東地方更生保護委員会委員長表彰

伊藤 達也 染谷 昭子

関東地方保護司連盟会長表彰

安宅 照男 大塚 裕介

関東地方更生保護女性連盟会長表彰

更生保護女性会員

大澤 和子

千葉県知事感謝状

碓井 幸代 小室 幸夫

中基 晴美

千葉県保護観察所長表彰

萩島 賢

千葉県保護観察所長感謝状

更生保護女性会員

山口 充美 土橋 多美子

小形 涼子

千葉県保護司会連合会長表彰

新貝 信孝 津川 恵美子

阿部 利勝 立石 眞二

眞殿 弘一 脇本 正範

加藤 明広

千葉県更生保護女性連盟会長表彰

更生保護女性会員

櫻井 恵子 戸村 よし子

櫻井 正子 都築 由貴江

瑞宝双光章を受章して  
高橋 君枝（習志野）

令和3年春の叙勲に際しまして、はからずも瑞宝双光章の栄に浴すことになり、身に余る栄誉はひとえに、皆様方の温かいご指導ご厚情の賜と心から感謝申し上げます。

コロナ禍の影響により、皇居で天皇陛下に拝謁を賜ることは叶いませんでしたが、8月4日習志野市役所において保護観察所長より勲記勲章の授与を受け、所長並びに市長より心温まる御祝辞をいただきました。思い起こせば、今は亡き山岸節子氏の薦めで、平成9年保護司として活動をはじめ、13年に未熟な私は、常務理事を受け、28年に習志野支部長、習志野八千代地区副会長を拝命いたしました。今日まで活動を続けられましたことは、

多くの先輩保護司や仲間を支えられたことと謹んで御礼申し上げます。これからも、この度の名誉を深く心に刻み、微力ながら精進を重ねて行く所存でございます。宜しくお願ひ申し上げます。



**フォトでつづる活動**

千葉県更生保護大会にて  
瑞宝双光章受章者と  
法務大臣表彰受賞者が出席

八千代市民祭 2021  
会場で啓発活動

定期駐在は、予定通り実施  
対象者を待つ、保護観察官  
と保護司

地域別定例研修会  
2年ぶりに地区で開催

向う三軒両隣

困ったときの やさしい



会長 高橋 勝

習志野市社会福祉協議会

令和3年6月25日付で、習志野市社会福祉協議会会長に就任いたしました高橋勝と申します。

当協議会は、地域福祉を推進する団体として、「誰もが自分らしく地域で安心して暮らし続ける」福祉のまちづくりを推進することを使命としています。

「習志野八千代地区保護司会」の皆さまには、平素より、当協議会の地域福祉活動に對しまして、ご支援とご協力をいただき、心より感謝と御礼を申し上げます。

貴会に加入されている保護司54名は、法務大臣から委嘱された非常勤の国家公務員であり、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間ボランティアとして、研修、犯罪予防活動、関係機関との連絡調整、広報活動などの組織的な活動のほか、例年7月には「社会を明るくする運動」として街頭キャンペーンや講演会なども行っていると伺っております。

犯罪や非行の防止、罪を犯した人の更生に理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする保護司の皆さまは、地域での関わりが希薄になつてい

る中での活動において、従来にも増したご苦労があるのではないかと思料いたします。

今日、单身世帯の増加、地域・家庭のつながりの希薄化、社会的孤立・子どもの貧困の増加、また、一昨年からコロナ禍による所得格差の拡大がより鮮明になり、二極化の度合いをより深めている中、保護司の皆さまの役割は、ますます重要になつてまいります。

全ての市民が「誰もが自分らしく地域で安心して暮らし続ける」福祉のまちを実感できるよう、当協議会も尽力してまいりますので、今後もご活躍を期待し、貴会の益々のご発展と保護司の皆さまのご健勝を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

退任保護司



吉種 勉 (習志野)

令和3年3月をもちまして退任の運びとなり、大変さみしいことと思っております。又コロナ禍が全国的に広まって、この先が心配になっておりました。でも最近、少しずつでも収まりつつあり安心致しております。

保護司の皆様には、保護観察の実施に對して、人との接触に気をつかいながら行動していかねければと、試行錯誤の日々をお過ごしではと思っております。

私も振り返ってみれば、色々な行事に参加させていただき、社会を明るくする運動では、街頭啓発及び講演会、社会貢献活動では、車椅子掃除、市主催の市民まつりのパレード等、一生懸命日々をすごしてまいりました。

今後の皆様の活躍を、陰ながら見守らせて戴きます。

平野 公子 (八千代)

令和3年2月17日 ご逝去

お二人の永年にわたる保護司としての活動に心より敬意を表します。

新任のあいさつ



萩原 照枝 (習志野)

令和3年3月1日付けで保護司を拝命いたしました。

コロナ禍の為、具体的な活動には入れていませんが、先輩方の「二緒にね」との温かい言葉を胸に自分なりの途を探り、何よりも寄り添う心を大切に更生保護に貢献していきたいと存じます。



橋本 周二 (八千代)

昨年3月に拝命致しました。保護司という重要な役割を、まだまだ未熟な自分が全うできるのかと自問自答が続いています。

皆様のご指導を受けながら、少しでもこの社会に役立てるよう努めて参ります。どうぞ宜しくお願い致します。



立崎 晴司 (八千代)

この度、希望が叶い、保護司の委嘱を頂くことが出来ました。保護司の役割や責務につきましては、未だ咀嚼出来ておらず、皆様からご教導頂くことが多々あるかと思

います。

地域に於いての更生保護に、少しでも貢献出来ますよう勤しむ所存ですので、宜しくお願い申し上げます。



瀨谷 政宏 (八千代)

この度、保護司を拝命いたしました。研修を受け、資料を受け取り、その職務の重さ

と難しさに身の引き締まる思いです。

学びながらの務めとはなりますが、これまでの経験を活かし、微力ながらお役に立てればと思っております。どうぞよろしく

